



## 1. 地域おこし協力隊ビジネスアワード事業活動報告の実施

### (1) ビジネスアワード事業活動報告の概要

第5回地域おこし協力隊全国サミットにて、地域おこし協力隊ビジネスアワード事業の採択団体（隊員）の活動状況を報告した。

- 日 時：平成31年2月24日（日） 13:00～17:00  
※ビジネスアワード事業活動報告は14:30～14:45
- 会 場：ベルサール渋谷ガーデン  
※ビジネスアワード事業活動報告は地下1階メイン会場

13:00～	<b>オープニングセレモニー</b> ・オープニングムービー上映 ・開会挨拶
13:15～ <b>基調講演</b>	 <b>基調講演テーマ</b> 「地域×デザイン ～地方創生に効くデザイン～」 <b>講演者</b> good design company 代表 水野 学氏   <b>トークセッションテーマ</b> 「くまモンと歩む 熊本県の取り組み」 <b>登壇者</b> 熊本県 東京事務所長 成尾 雅貴氏
14:15～14:30 休憩	
14:30～	<b>地域おこし協力隊 ビジネスアワード紹介</b> 青森県弘前市「hana-tsumi (ハナツミ)」 茨城県桜川市「大泉さくらガーデンヒルズプロジェクト」 広島県東広島市「豊栄羊毛プロジェクト」 沖縄県糸満市「公民館を活用した『半自治半X』」
14:45～	<b>パネルディスカッション</b> 「災害復興と地域おこし協力隊 ～協力隊10年の歩みと新たな可能性～」 <b>コーディネーター</b> 阿部 巧氏 (公益社団法人中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター長) <b>パネリスト</b> 西原 千織氏 (岡山県高梁市地域おこし協力隊員) 矢羽田 健太氏 (大分県日田市地域おこし協力隊員) 藤井 裕也氏 (岡山県美作市地域おこし協力隊員OB) 河井 昌猛氏 (大分県日田市地域おこし協力隊員OB) 佐野 利恵氏 (岩手県釜石市復興支援員)

## (2) 採択団体報告

地域おこし協力隊ビジネスアワード事業の概要説明ののち、各採択団体の活動状況を報告した。

### 地域おこし協力隊ビジネスアワード事業について

- ✓ 地域おこし協力隊員の活動の充実や地域への定住・定着を更に促進するため、地域の課題解決や地域活性化に向けて、地方自治体の支援のもとで起業に取り組む隊員又は隊員OB・OGのビジネスプランを募集し、コンペティション形式で審査の上、支援事業を採択
- ✓ 採択事業については、専門家による現地指導を実施し、事業実現に向けたサポートを実施

ビジネスアワード審査会 審査員・アドバイザー  
(敬称略・五十音順)

- 慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛 義徳
- (一社) 移住・交流推進機構理事 岩崎 正敏
- NPO法人ETIC.代表理事 宮城 治男
- (株) 和える代表取締役 矢島 里佳

#### スケジュール


平成30年10月～11月 提案事業募集  
平成30年12月 審査、採択団体決定  
平成31年1月～2月 専門家による現地指導

専門家による現地指導 (事業実現に向けた支援)



① 青森県弘前市（提案者：弘前市地域おこし協力隊員 赤木麻佳氏）

○報告資料

<b>弘前市 (青森県)</b>	<b>hana-tsumi (ハナツミ)</b>		
<b>栽培の過程で間引き（摘花）により捨てられてしまう「りんごの花」を活用した商品やサービスの開発・販売を展開</b>			
 <p>赤木 麻佳 隊員 活動時期 ：H28.6～</p>	<b>事業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● リンゴの花のハーバリウムやプリザーブドフラワーなどのお土産品やギフト品を開発するほか、イベントでのフラワーシャワーなどでの活用を提案</li><li>● これらの商品・サービス開発を通して、りんご栽培の丁寧さと花の美しさもアピールし、「りんご」と「弘前（青森）」の魅力アップを目指していく</li></ul>	<b>事業のポイント</b> .. <small>ここに注目！</small> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 捨てられていた「りんごの花」に、隊員のデザインスキルを活かして付加価値をつけ、商品化</li><li>✓ リンゴの花の新たな活用方策を開発することで、リンゴ自体や、リンゴ栽培の舞台となる弘前という地域のPRに寄与することも期待できる</li></ul>	
<b>今後の事業展開</b>			
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2020年の本格的な創業を目指し、今後は農家や研究機関との連携強化や、販路拡大に取り組む</li><li>✓ 花の買い取りだけでなく、摘花作業や加工作業を通じて、農家の収入アップをはかる</li></ul>			
<b>専門家からのアドバイス</b> ～採択団体への現地訪問指導から～			
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 販路は、商品のブランドイメージに直結するものであり、売り場に来る層と購入層がマッチしていくことが重要</li><li>✓ 例えば、一般的なお土産店に置くよりも、高級感のある店に置いたほうが良い</li></ul>			

② 茨城県桜川市（提案者：桜川市地域おこし協力隊員 大川奈奈氏）

○報告資料

桜川市 (茨城県)	<h2>大泉さくらガーデンヒルズプロジェクト</h2>		
<h3>桜川市大泉地区の隠れた地域資源である「桜」を活用した商品開発や、交流の場づくりによる誘客事業を展開</h3>			
 <p>大川 奈奈 隊員 活動時期 ：H30.2～</p>	<h4>事業の概要</h4> <ul style="list-style-type: none"><li>● まずは地区内の農産物直売所の運営体制の見直しや、地域の「桜」を素材とした「桜の塩漬け」や「桜の石けん」等の商品開発を行い、収益力を強化</li><li>● あわせて、地域住民を巻き込んだ、桜の里やハーブガーデン等の体験交流拠点の整備も進め、地域内外の人々の交流の場づくりと地域コミュニティの活性化を目指していく</li></ul>	<h4>事業のポイント</h4> <p>ここに注目！</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ まずは直売所の運営見直しから着手し、地元住民と連携しながら段階的、複合的に事業を展開</li><li>✓ 桜川市では、ヤマザクラをキーワードとした地域づくりを進めており、桜川市全体のPRにも寄与</li></ul>	
<h4>今後の事業展開</h4>			
 <p>桜の塩漬け</p>	 <p>桜の石鹸</p>	 <p>直売所さくら</p>	 <p>桜の植樹</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ まずは直売所の運営に集中し、周辺でのイベント実施や新商品開発を進めていく</li><li>✓ 長期的には、大泉地区全体を「さくらガーデン」として、地域住民と来訪者の交流の場となり、来訪者の第二のふるさととなることを目指す</li></ul>
<h4>専門家からのアドバイス ～採択団体への現地訪問指導から～</h4>			
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 将来的に、民泊なども進めていくのであれば、イタリアの「アルベルゴディフーズ（分散型ホテル：町全体をホテルに見立てる取り組み）」も参考にするとよい</li><li>✓ 直売所は、地元の方も「買いたい」と思えるようにすることが必要</li></ul>			

③ 広島県東広島市（提案者：東広島市地域おこし協力隊員 山田芳雅氏）

○報告資料

東広島市  
(広島県)

## 豊栄羊毛プロジェクト

### 東広島市豊栄町で、草刈りのために飼育されている羊の毛を活用したアクセサリの製作や各種体験事業を展開



山田 芳雅 隊員

活動時期  
：H29.4～

#### 事業の概要

- 町内の古民家を借り上げた「ウール工房」で、地域の若者が高齢者とともに、羊毛を素材としたピアスやモバイル作りを行うほか、糸紡ぎ体験など、多くの方に「コト」を体験できる場を提供
- これらを県内外に広く販売、PRすることで、羊のまちとしてのブランド化と、農村田園環境の維持を目指していく

#### 事業のポイント ..ここに注目！

- ✓ すでに地域にあったが活用されてこなかった羊毛を資源として活用
- ✓ 「ウール工房」を、地域住民が羊毛製品づくり等に参加する場、かつ地域外の人が体験等で訪れる場とすることで地域内外の交流を促進



地域で飼われている羊



羊毛製品



体験作業



羊毛加工

#### 今後の事業展開

- ✓ 将来的には、隊員が代表を務める会社の一部門に組み込んで持続可能な体制を構築
- ✓ 豊栄町の羊の頭数を増やし（2022年に60頭）、羊のまちとしてのブランド化につなげる

#### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ 体験事業などコト消費を通じて、地域と羊に関するストーリーをつたえることが重要
- ✓ 授業に取り入れてもらうなど、地元の学校（小学校～大学）と連携して、若者を巻き込むのが良い

④ 沖縄県糸満市（提案者：糸満市地域おこし協力隊員 藤枝真美氏）

○報告資料

糸満市  
(沖縄県)

## 公民館を活用した「半自治半X」

過疎化が進む地域において、公民館という地域自治の拠点を活用した、地域住民と来訪者との交流ビジネスを展開



藤枝 真美 隊員

活動時期  
: H28.7~

### 事業の概要

- 公民館で行われる自治会活動の一環として、若者向けのイベントや、地元のおじい・おばあと楽しく会話を交わせる癒しの空間づくりなどを展開
- 地元住民だけの公民館ではなく市外・県外からの利用者を増やすことで、過疎化が進んだ地域コミュニティの活性化と、地域における経済活動の活発化を目指していく

### 事業のポイント ..ここに注目!

- ✓ 自治会活性化と収益事業を両立し、さらに地域内外の交流の場を形成
- ✓ 地域住民にとっては当たり前だった、「海に見える公民館」という優れたロケーションであることを、地域外からきた隊員が再発見し、魅力として発信



名城公民館



公民館から見える海



フリーマーケット



アロマ教室

### 今後の事業展開

- ✓ まずは、公民館を活用した教室や交流事業等に取り組む
- ✓ 将来的には、集落内の空き家を活用したコワーキングスペースや宿泊施設等の整備も目指していく

### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ すぐに大きな収益は見込みにくいため、うまく外部支援も活用しながら、事業化を進めていってほしい
- ✓ ロケーションが素晴らしく、素材の魅力は高いため、空き家改修等を行う際には、クラウドファンディングで資金調達できる可能性も高い

○採択団体（隊員）からの事業実施報告（壇上での報告コメント）

<青森県弘前市 赤木隊員>

- ・ 弘前は日本一のリンゴの生産地であり、5月になると、一面、リンゴの花が見られるようになります。リンゴの花はかわいいだけでなく、「選ばれた恋」という素敵な花言葉もあります。この魅力ある花を使って、農家さんの収益につながるようにと思い、この事業を考えた。
- ・ これから、ご指導いただいたことを踏まえて、実現できるように頑張りたい。

<茨城県桜川市 大川隊員>

- ・ 私の、「桜と共に生きる」というライフワークと、大泉の人達の想いや、桜という資源、これが上手く一致して、このプロジェクトが生まれた。
- ・ このような機会を作ってくださった、地域おこし協力隊の制度に感謝している。
- ・ 今、まさにスタートしようとしているところである。色々な問題が起きてくると思うが、地域の人達、大泉の人達と一緒に、楽しく、この桜の里を作ることで、その楽しさに魅かれて外から沢山の人が「あ、ここが故郷だ」と思えるような桜の里を作っていくように頑張りたい。

<広島県東広島市 山田隊員>

- ・ （手に持った帽子を見せながら）これも紡いだり編んだりして、東広島産の羊で全部完結している作品である。こういうのをおばあちゃん達と作りながらプロジェクトにしていこうということで今、活動している。
- ・ 自分は大きく2つのことに重きを置いている。ひとつは「関わりしろ」を地域のおばあちゃん達に作って行って、アーリーウィン、成功体験を早く積むことによって、僕がやるわけではなく、地域のおばあちゃん達が主導でできるようにすること。もうひとつは、自走できるようにすること。
- ・ 作品ができて「すごいね」ではなく、きちんとビジネスになるように、どこが損益分岐点か、どうやってキャッシュポイントを作っていくのかを気にしながらやっている。

<沖縄県糸満市 藤枝隊員>

- ・ このプロジェクトはやはり私一人の力ではなく、いつも手助けをしてくれる友達や、公民館を貸してくれる地域の人達や、担当職員の協力あつてのプロジェクトである。
- ・ これからも皆さんの応援を糧に、地域が活性化していくプロジェクトを成功させていきたい。



会場の様子



会場の様子



赤木隊員



大川隊員



山田隊員



藤枝隊員



### (3) 活動状況のパネル展示

第5回地域おこし協力隊全国サミットのイベント会場にて、地域おこし協力隊ビジネスアワード事業の採択団体（隊員）の活動状況のパネル展示を行った。

○展示の様子



## 地域おこし協力隊ビジネスアワード事業

- ✓ 地域おこし協力隊員の活動の充実や地域への定住・定着を更に促進するため、地域の課題解決や地域活性化に向けて、地方自治体の支援のもとで起業に取り組む隊員又は隊員OB・OGのビジネスプランを募集し、コンペティション形式で審査の上、支援事業を採択
- ✓ 採択事業については、専門家による現地指導を実施し、事業実現に向けたサポートを実施

### ビジネスアワード審査会 審査員・アドバイザー（敬称略・五十音順）

慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛 義徳  
（一社）移住・交流推進機構理事 岩崎 正敏  
NPO法人ETIC.代表理事 宮城 治男  
（株）和える代表取締役 矢島 里佳

### スケジュール

平成30年10月～11月 提案事業募集  
平成30年12月 審査、採択団体決定  
平成31年1月～2月 専門家による現地指導

### 専門家による現地指導（事業実現に向けた支援）



弘前市  
(青森県)

## hana-tsumi (ハナツミ)

栽培の過程で間引き(摘花)により捨てられてしまう「りんごの花」を活用した商品やサービスの開発・販売を展開



赤木 麻佳 隊員

活動時期  
: H28.6~

### 事業の概要

- リンゴの花のハーバリウムやプリザーブドフラワーなどのお土産品やギフト品を開発するほか、イベントでのフラワーショーなどでの活用を提案
- これらの商品・サービス開発を通して、りんご栽培の丁寧さと花の美しさもアピールし、「りんご」と「弘前(青森)」の魅力アップを目指していく



りんごの花



フラワーショー



フラワーショー用の花



摘花作業

### 事業のポイント ... ここに注目!

- ✓ 捨てられていた「りんごの花」に、隊員のデザインスキルを活かして付加価値をつけ、商品化
- ✓ リンゴの花の新たな活用方策を開発することで、りんご自体や、りんご栽培の舞台となる弘前という地域のPRに寄与することも期待できる

### 今後の事業展開

- ✓ 2020年の本格的な創業を目指し、今後は農家や研究機関との連携強化や、販路拡大に取り組む
- ✓ 花の買い取りだけでなく、摘花作業や加工作業を通じて、農家の収入アップをはかる

### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ 販路は、商品のブランドイメージに直結するものであり、売り場に来る層と購入層がマッチしていくことが重要
- ✓ 例えば、一般的なお土産店に置くよりも、高級感のある店に置いたほうが良い

桜川市  
(茨城県)

## 大泉さくらガーデンヒルズプロジェクト

桜川市大泉地区の隠れた地域資源である「桜」を活用した商品開発や、交流の場づくりによる誘客事業を展開

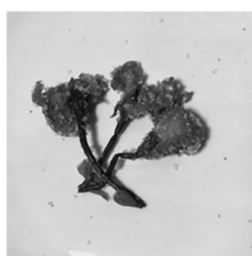


大川 奈奈 隊員

活動時期  
: H30.2~

### 事業の概要

- まずは地区内の農産物直売所の運営体制の見直しや、地域の「桜」を素材とした「桜の塩漬け」や「桜の石けん」等の商品開発を行い、収益力を強化
- あわせて、地域住民を巻き込んだ、桜の里やハーブガーデン等の体験交流拠点の整備も進め、地域内外の人々の交流の場づくりと地域コミュニティの活性化を目指していく



桜の塩漬け



桜の石鹸



直売所さくら



桜の植樹

### 事業のポイント ... ここに注目!

- ✓ まずは直売所の運営見直しから着手し、地元住民と連携しながら段階的、複合的に事業を展開
- ✓ 桜川市では、ヤマザクラをキーワードとした地域づくりを進めており、桜川市全体のPRにも寄与

### 今後の事業展開

- ✓ まずは直売所の運営に集中し、周辺でのイベント実施や新商品開発を進めていく
- ✓ 長期的には、大泉地区全体を「さくらガーデン」として、地域住民と来訪者の交流の場となり、来訪者の第二のふるさととなることを目指す

### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ 将来的に、民泊なども進めていくのであれば、イタリアの「アルベルゴディフーズ（分散型ホテル：町全体をホテルに見立てる取り組み）」も参考にするとよい
- ✓ 直売所は、地元の方も「買いたい」と思えるようにすることが必要

東広島市  
(広島県)

## 豊栄羊毛プロジェクト

東広島市豊栄町で、草刈りのために飼育されている羊の毛を活用したアクセサリーの製作や各種体験事業を展開



山田 芳雅 隊員

活動時期  
: H29.4~

### 事業の概要

- 町内の古民家を借り上げた「ウール工房」で、地域の若者が高齢者とともに、羊毛を素材としたピアスやモバイル作りを行うほか、糸紡ぎ体験など、多くの方に「コト」を体験できる場を提供
- これらを県内外に広く販売、P Rすることで、羊のまちとしてのブランド化と、農村田園環境の維持を目指していく



地域で飼われている羊



羊毛製品



体験作業



羊毛加工

### 事業のポイント ... ここに注目!

- ✓ すでに地域にあったが活用されてこなかった羊毛を資源として活用
- ✓ 「ウール工房」を、地域住民が羊毛製品づくり等に参加する場、かつ地域外の人が体験等で訪れる場とすることで地域内外の交流を促進

### 今後の事業展開

- ✓ 将来的には、隊員が代表を務める会社の一部門に組み込んで持続可能な体制を構築
- ✓ 豊栄町の羊の頭数を増やし（2022年に60頭）、羊のまちとしてのブランド化につなげる

### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ 体験事業などコト消費を通じて、地域と羊に関するストーリーをつたえることが重要
- ✓ 授業に取り入れてもらうなど、地元の学校（小学校～大学）と連携して、若者を巻き込むのが良い

糸満市  
(沖縄県)

## 公民館を活用した「半自治半X」

過疎化が進む地域において、公民館という地域自治の拠点を活用した、地域住民と来訪者との交流ビジネスを展開



藤枝 真美 隊員

活動時期  
: H28.7~

### 事業の概要

- 公民館で行われる自治会活動の一環として、若者向けのイベントや、地元のおいしい・おばあちゃんと楽しく会話を交わせる癒しの空間づくりなどを展開
- 地元住民だけの公民館ではなく市外・県外からの利用者を増やすことで、過疎化が進んだ地域コミュニティの活性化と、地域における経済活動の活発化を目指していく



名城公民館



公民館から見える海



マルシェ



アロマ教室

### 事業のポイント ... ここに注目!

- ✓ 自治会活性化と収益事業を両立し、さらに地域内外の交流の場を形成
- ✓ 地域住民にとっては当たり前だった、「海が見える公民館」という優れたロケーションであることを、地域外からきた隊員が再発見し、魅力として発信

### 今後の事業展開

- ✓ まずは、公民館を活用した教室や交流事業等に取り組む
- ✓ 将来的には、集落内の空き家を活用したコワーキングスペースや宿泊施設等の整備も目指していく

### 専門家からのアドバイス ~採択団体への現地訪問指導から~

- ✓ すぐに大きな収益は見込みにくいため、うまく外部支援も活用しながら、事業化を進めてほしい
- ✓ ロケーションが素晴らしく、素材の魅力は高いため、空き家改修等を行う際には、クラウドファンディングで資金調達できる可能性も高い

## **2. ビジネスアワード事業採択団体の取組の特徴とポイント**

今年度のビジネスアワード事業採択団体（4団体）は、いずれも地域おこし協力隊による起業・事業化において先進性を有し、他地域において参考となる取組である。

ここでは、各取組について、その創発プロセス、価値創出（ビジネス）の構造、地域との関わりや繋がり、今後の事業の展開方向といった各側面から、その特徴とポイントを整理した。

### **(1) 事業創発のプロセスからみた特徴とポイント**

今年度採択された4団体は、事業創発のプロセスからみると、大きく「ノウハウ活用型」と「アイデア提案型」に区別することができる。それぞれの特徴とポイントは以下のように整理することができる。

#### **① ノウハウ活用型**

##### **【特徴】**

地域（自治体）が有している課題に対し、地域おこし協力隊が保有している技術・知識等のノウハウを活用した事業提案を行い、課題解決とビジネス化を展開しようとするもの。

##### **【本事業での例】**

<弘前市>

弘前市では、赤木隊員が有するイラストやデザインのスキルを活用して、りんごの花を活かした商品開発や用途提案を行っている。

<桜川市>

桜川市では、大川隊員が有する化粧品等の製造知識等を活用して、桜関連の商品開発を行っている。

##### **【事業展開のポイント】**

自治体サイドとしては、地域が進める取組みの加速・推進に必要なスキル・ノウハウを有する人材を、いかに採用できるかがポイントとなる。

協力隊サイドとしては、応募時に、自らが有するスキル・ノウハウや希望する活動内容、地域が求める人材像やミッションとがマッチしていることをしっかりと確認することが重要である。

#### **② アイデア提案型**

##### **【特徴】**

地域支援を中心とした活動を行う中で、地域おこし協力隊がその地域の課題や特色を捉え、その解決につながるビジネスアイデアを提案し、展開しようとするもの。

##### **【本事業での例】**

<東広島市>

東広島市では、山田隊員が、以前から地域にあったが活用されていなかった羊毛の活用を提案し、羊毛による製品づくりや体験の場づくりを行っている。

<糸満市>

糸満市では、藤枝隊員が、公民館を拠点として地域の自治会活動にかかわる中で、そのロケーションを活かした自治会活動の商品化を提案している。

**【事業展開のポイント】**

アイデア提案型では、自らのアイデアやそれを活用したビジネスのビジョンが、地域の住民や関係者と適切に共有されるかがポイントとなる。

日ごろの活動を通じた地域住民や行政職員をはじめ関係者とのコミュニケーションや、ビジネス化の意義等についての理解、賛同を継続的に図っていくことが重要である。

**(2) 価値創出の構造からみた特徴とポイント**

各取組とも、地域にこれまで無かった新しいアプローチを通じて、地域固有の資源、特に未利用資源を活用して新しい価値の創出を図るとともに、地域課題の解決にも寄与する事業構造となっている。

本事業の例では、大きく以下の2つの構造が見て取れる。

**① 地域の未利用資源から、新しい価値を創出する取組**

<弘前市>

捨てられていた「りんごの花」に、隊員のデザインスキルを活かして付加価値をつけ、商品化

⇒さらに、りんご自体や、りんご栽培の舞台となる地域（弘前）のPRにも寄与

<東広島市>

これまで活用されてこなかった羊毛を素材として、アクセサリ等を製作・商品化

⇒さらに工房を通じた参加・体験の場の提供により、交流促進にも寄与

**② 地域資源の新しいつなぎ方を提案することで、新たな価値を創出する取組**

<桜川市>

「桜」を中核としながら、農業、観光をつなぎ、地域コミュニティを活性化

⇒桜関連の商品開発のほか、桜を地域のブランディングに活用し、観光・体験交流の場としての整備を目指していく

<糸満市>

自治会活動と観光交流機能をつなぎ、地域コミュニティを活性化

⇒「海に見える公民館」というロケーションを活かし、公民館を観光客向けの空間として利用するとともに、自治会活動を域外者向けにも提供



### (3) 地域との関わりやつながりからみた特徴とポイント

採択された団体の各事業は、いずれも、自治体に加え地域の多様な主体との連携や協力関係を構築することが事業展開の前提となっており、またこうした地域内の連携・協力が、事業の成功・拡大のポイントともなっている。

今年度の提案事業の中には、今後の事業展開にあたり、(協力隊員ではない) 地元関係者がその担い手として位置付けられているものもあり、売上や収益の獲得だけでなく、賛同者や協力者など地域の人材の取り込みも事業成功要素のひとつとなっているものもある。

例えば、今年度の各提案事業では、その(隊員による) 取組の成功と、関係する各主体の発展や振興との関係を、以下のように整理することができる。

#### <弘前市>

事業の成功には、リンゴ農家からのリンゴの摘花の提供が必須であり、リンゴの摘花に付加価値がつくことで、リンゴ農家の収益を向上させる。さらに、事業規模が拡大すれば、摘花や加工作業における雇用創出にもつながる。

#### <桜川市>

事業の展開プロセスとして、まず、直売所の運営見直しに着手し、その後、将来的には体験観光の拠点整備等も目指していくが、これらの施設の担い手としては、地元の住民等を想定しており、事業やビジョンの共有とそれへの賛同・協力が事業成功の条件となっている。

#### <東広島市>

事業の成功には、地元農家が保有する羊(の毛)の提供や、地域の人材が有している羊毛加工技術(染色や編み等)が必須である。さらに、体験事業等の実施には、地域の担い手が主体的に関わっていくことが条件となっている。

#### <糸満市>

本来、住民向けの施設である公民館の活用にあたっては、住民の積極的な参画と理解が条件となる。住民の積極的な参画のもとで、自治会活動を通じた収益獲得や域外からの観光交流の活発化が進めば、住民の意識をさらに積極化し、さらなる交流の促進＝事業の成功・拡大につながっていく可能性がある。

### (4) 今後の事業の展開方向からみた特徴とポイント

今年度の提案事業は、いずれも地域固有の資源や地域住民との連携が前提となっているものであるが、それがゆえに、ビジネスとしての今後の展開方向、より具体的には事業規模や収益性について、現時点で明確な目標や計画が見えにくい状況となっている。

弘前市の場合、リンゴの摘花を活用した商品・サービスの開発は、今後の事業拡大にあたり、市場のニーズが見えず、今後の投資や活動規模の設定が課題となっている。

桜川市の場合、まずは直売所の運営見直しを通じて、地域コミュニティの収益力を拡大し、投資費用を確保していくこととなるが、これもその販売量や収益性の目途はたっていない。

東広島市の場合も、現在はまだ商品・サービスの試作・試行段階であり、販路や市場規模を明確に見通すまでには至っていない。

糸満市の場合においても、半自治半 X というコンセプトは地域の理解・賛同を得ているものの、ビジネスの性質上、最初から大きな収益を確保することは難しく、任期終了後の自らの働き方も含めて、具体的な検討を行っている段階である。

このように、今後の事業の方向性、ひいてはビジネスとしての成功可能性は、任期終了後の隊員の働き方や関わり方にも大きく影響しているといえる。任期終了後、提案事業による収益が得られるまでの間、どこで、どのように事業に関与するか、どの程度の収益を確保できるかによって、事業の展開方向は大きく異なってくるものと考えられる。

いずれにしても、小さなビジネスからの成功の積み上げを図りつつ、生業になるまでの具体的な暮らし方や働き方とあわせて事業展開方向を検討することも重要なポイントであるといえる。